

《随想》

《栗城のルーツ その六》

栗城 博



ルーツ探しを始めて赤沢村の墓地に行った時に聞いた、「墓参りに来た人を見たことがない栗城姓の墓」は、天正18年から数えて157年後の延享四年(1747年)から163年後の宝暦三年(1753年)と江戸中期の年号なので、武士ではなかった筈の栗城幸七、栗城忠右衛門と苗字を名乗っているのは何故だろうか?と疑問を持ちました。

調べていくと、山ノ内家と関りがあることが分かりました。越後の下田郷下大浦に逃れた山ノ内氏勝とその嫡子朝通は下大浦で亡くなり、朝通の子二人は横田に移され、旧臣達が成人するまで世話をしました。

弟の俊名を会津藩に仕官させた時の嘆願書が残っています。「旧主俊名を仕官させて頂いたら藩の命令に従い、君臣一体となってどんな仕事にも就く」と書いた、旧臣達56名の署名連判状で、武士でない筈の連判者全員が苗字を名乗った文書を差出して請願しています。明暦元年(1655年)に出されたこの請願は、翌年に受理され、十石二人扶持という小祿でしたが、百姓から藩士に取上げられることなどなかった時代ですから、旧臣達は大喜びでした。

それから二十二年後、途中で五石一人扶持の加増があつて十五石三人扶持になりましたが、「こんな薄給ではやっていけない」と、俊名は辞表を出してしまいました。驚いた旧臣達は、俊名の加増願いの申立てに立ち上りました。署名連判者400人以上と、初回の八倍に膨れ上がった署名連判状で、「知行を加増して頂いた暁には、我ら四百余人君臣一体となって藩命に従います」と書いて百石に加増されました。

この後も山ノ内家には難局が訪れます。俊名の嫡子俊方の代には家禄召上げ、領外追放。俊方の子豊房の代には再び家禄召上げ、家名断絶。その度に解決に奔走したのが旧臣達で、旧臣達の子孫が書き残した文書には「訴訟すること数十度」と書かれてあり、そのほとんどを「勝訴」で切り抜けてきました。百姓である者達が苗字の入った名を名乗りど偉いことをしたものです。



その背景にはそれなりの理由がありました。山ノ内俊陣が山ノ内家の正嫡と認められた時、鉄の絆の結束を確かめるため、俊陣へ旧臣達が差出した忠誠連判状があり、俊名が仕官した時は、旧臣達を統括するために「十か条の掟」を作っています。作っただけでなく毎年一月十二日には、旧臣の代表を若松の屋敷に呼んで読み聞かせていました。これは慶応4年(大政奉還の年)まで続きました。その間の働きは藩士以上の働きと、歴代の藩主が認めていたということです。

武士で無くなった旧臣達が、苗字を名乗ったとしても許されていたのでしよう。「栗城幸七」「栗城忠右衛門」と墓に苗字があることが不思議で無くなりました。

つづく

まちゼミ やまと得する 街のゼミナール **受講料無料**

2 February 開催場所: JRCセミナールーム

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28 住宅大賞	29	30	31	1	2	3 まちゼミ 前B:投資
4 まちゼミ A:住宅	5 まちゼミ C:リフォーム	6	7	8	9	10
11 建国記念の日	12 振替休日	13	14	15	16	17 まちゼミ A:住宅
18 まちゼミ B:投資	19	20	21	22	23 まちゼミ C:リフォーム	24 まちゼミ B:投資
25 中報編 投資ゼミナール	26 まちゼミ A:住宅	27	28	1	2	3

主催 大和市商工会議所 JRC 定休日

A:増税にそなえる住宅購入の話
2月 4日(日)・17日(土)・26日(月) 定員10名

① 10:00~12:00
② 14:00~16:00 3回とも①と②の時間で1日2講座開催します。

講師: 木本 史晴

一生に一度の家づくり...不安や疑問を解消する事が家づくりの第一歩になります。ここから楽しい家づくり始めませんか?

《セミナーに参加してわかる事》

- 家づくりのお金の事
- 住宅ローンの事
- 業者の選び方
- 最近の工法や耐震の事
- 注文住宅の価格について
- 税金について

B:身近な不動産投資の話《初歩編》
2月 3日(土)・18日(日)・24日(土) 定員10名

① 10:00~12:00
② 14:00~16:00 3回とも①と②の時間で1日2講座開催します。

講師: 栗城 健

不動産投資といっても色々あります。一棟アパート、戸建て、区分所有、中古、新築、ワンルーム、ファミリータイプ、国内不動産、海外不動産などなど...しかし共通するのは投資の目的、考え方、出口戦略、お金の事です。まずはそこから聞いてみませんか?

C:整理収納アドバイザーのリフォームの話
2月 5日(月)・23日(金) 定員8名

① 10:00~11:30
② 14:00~15:30 2回とも①と②の時間で1日2講座開催します。

講師: 木村 幸美

大昔はモノが少なかったため、そもそも整理する必要がなかったですし、整理という言葉もなかったかもしれません。正しい整理のスキルは整理する人の心が正しい認識にある時に身に付きます。整理整頓と整理収納の効果から、リフォームの考え方をお話します。